



第7回日本伝道会議でのワークショップ (岐阜市長良川国際会議場)

「苦難における十字架の慰め」



副理事長・倉嶋新

「キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。」
ペテロの手紙第一 2:24

能登半島の地震の衝撃で幕を開けた2024年。改めて、私たちの歩むすぐ隣のレーンには、いつも苦難があることを思い起こさせられました。いつ平穏な日常が破られるかは分かりません。主が再び来られ、神の国が完成するその時まで苦難はある、という聖書の語る当たり前の事実を覚えます。しかし、それは同時に福音の確かさと望みの力強さ、そして主にある深い慰めを覚える時でもあるでしょう。なぜなら、そこにこそ十字架の主がともにおられることを、私たちは経験するからです。

いつの間にか JEA において、この何者でもない者が責任を負う立場へと導かれました。改めて思われるのは、この交わりはあって当然のものではないということです。この交わりは、JEA の名が示す通り、ただ「福音」を中心にするゆえに与えられたものであり、先人や先達が多くの犠牲を払い、築き上げてこられた豊かなものであることを覚えます。しかし、私の愚かさゆえに、それが恵みではなく、いつの間にか重荷となり、形骸化し、表面的な交流のように映り、またそのように扱ってしまう自分がある

ことを、正直に告白しなくてはなりません。

豊かで真実な交わりを築くには、絶えず福音の恵みへと立ち返り、他の誰かではなく、そこに召された私が、まず主イエスに倣わなくてはならないという、シンプルな事実に行き当たります。そして、すでにそのように生きてくださっている多くの兄弟姉妹によって、今も JEA の交わりが、またそこから生み出される働きが進められていることに、深く感謝を覚えるのです。

さらに、この豊かな交わりを、次の世代へとつなげなくてはならないと思わされます。大切なものを確認しつつ、変化を恐れずに、主が導かれる未来へと、ご一緒に歩みを進めさせていただきたいのです。常に私たちの先を歩んでくださる十字架の主イエスを見上げ、聖霊のうめきに心合わせて祈り、父なる神とともに信頼してまいりましょう。決して変わることをない約束を握りしめ、それでも時に思い悩む心を素直に分かち合いながら、主に委ねる者に与えられる柔軟さと軽やかさをいただいてまいりましょう。そして、この時代にあって、イエスは救い主であり、私たちの王であることをともに宣言いたしましょう。JEA の交わりのうちにある諸教会の歩みを覚えつつ、被災された方々の上に、父なる神の慰めと癒しがあることを心からお祈りいたします。

目次

巻頭言	1
JCE7 後の宣教委員会の活動について	
互いに祝福し合う間柄	2
流れのほりて	
宣教フォーラム三重	3
AEA40 周年記念大会	4
AEA と D6 の働き	5
牧師の本棚	
信教の自由セミナー	6
青年宣教ネットワーク 2024	7
JEA アップデート	
総務局から	8

JCE7 後の宣教委員会の活動について

福井誠 宣教委員
宣教研究部門
国内開拓伝道会



宣教研究部門は、昨年9月『宣教ガイド2023』（JCE6『データブック』後継本）を発行いたしました。発売約2か月で、初版800部、重版の500部もほぼ完売となり、またその内容について、米国のクリスチャニティ・トゥデイ誌からの取材を受ける等、好評を得ました。この出版のためにお祈りと情報提供のため、様々ご協力をいただいた諸先生方に心より感謝申し上げます。

また今回の執筆は、30代、40代のメンバーが取り組み、諸先輩の助言を得ながら完成した労作です。JCE7以降は、彼らを中心となって、JCE関連についても、新たな取り組みを継続してまいります。

実際にそれは、JCE7の取り組みをJCE8につなげていくための宣教協力プラットフォームの開発、運営、推進です。日本伝道会議は1974年から始まり、福音派の諸教会全体の交わり、また宣教協力の推進の場として非常に重要な役割を果たしてきました。しかし、会議で共有された情報を、参加できなかった諸教会にも広く普及させることについて、また7年毎に行われる大会の内容を継続していくことについては課題がありました。「宣教協力プラットフォーム」は、その二つの課題を解決する目的で開発されました。現在このシステムには、すでにJCE7参加者の約1000名が登録されています。今後、JEA加

盟団体の教職・信徒約1万名の登録を進め、プロジェクトや分科会で取り上げられた諸テーマに関する取り組みと情報共有を推進していきます。またこうした試みは、首都圏と諸地方との距離を縮め、全国的な規模でのJEA加盟教会の宣教協力を一層推進していくことになると期待されるものです。

そのような意味で、宣教研究部門の体制も、これまでは首都圏のメンバーが中心でしたが、これからは、北海道から沖縄まで、日本の全国各地から様々な人材の力を結集し、日本宣教の課題解決に取り組んでいくことになります。

この他宣教研究部門は、JEAの在り方について宣教研究の視点から考察するプロジェクト、教派・教団、宣教団体の宣教協力を一歩踏み込んで考えるBPO的協力の在り方の可能性を探っていくプロジェクト、IT化時代にふさわしい宣教協力の在り方についてまとめるプロジェクトにも取り組んでまいります。

またJCE6以降、様々な社会変化の中で、クリスチャン情報ブックやキリスト教年鑑のデータが久しく更新できておらず、『宣教ガイド2023』は、既刊『データブック』の単純なアップデート版として出版することはできませんでした。しかし、この度ほぼ10年ぶりにキリスト新聞、クリスチャン新聞、はこぶね便等と協力し、日本のキリスト教会の統計情報を更新できる可能性が出てまいりました。次回の伝道会議に向けて、そうしたアップデート情報を含めた『宣教ガイド』を出版する準備も進めてまいります。どうぞ続けて、宣教研究部門の働きの祝福のために覚えてお祈りくだされば感謝です。

互いに祝福し合う間柄に

永井敏夫 宣教委員
異文化宣教ネットワーク部門



夢のようなJCE7が開催されてから半年ほどが経過した。そしてこの3月「グローバルナイト」の企画に参加した東海地域の方々を中心に、「グローバルチャーチフェローシップ」の名前でライングループが誕生した。現時点で22人が関わっているが、この人数がますます増えていくことを願っている。2024年度に東海地域でフェローシップ（食事、賛美の交わりなど）の企画の連絡が来るのを心待ちにしている。

この数年、都内のベトナム語教会、ネパール語教会とつながりが与えられている。どちらの国の言語もまだ一言も分からないが、礼拝に集う人々が賛美している表情にいつも励まされている。また行く度に来日したばかりの新しい人たちが来ている。

どちらの教会の場合も、礼拝をし、交わりをする場を求めている。自分たちで礼拝スペースを所有することは至難の業だ。都内のベトナム語礼拝の群れは、昨年のJEC7において居所のニーズを耳にした救世軍の牧師が動いてくださり、都内の小隊をお借りし午後には礼拝ができるようになった。ネパール語礼拝のネットワークが15弱あるそうだが、そのうち複数の群れが日本バプテスト連盟や同盟福音基督教会などの教会を借りて礼拝している。

11月4日（月）に都内で Bless Japan Conference が企画されている。日本でキリスト者として生きている外国からの方々が、日本を祝福したいという思いを主からの使命として受け取り、日本のキリスト者とともに礼拝をし、互いに交わり、祈る機会だ。日本の地域教会からもこのような集いにぜひ参加して欲しい。きっと目がさらに開かれる機会となると思う。「私たちは祝福を受け継ぐために召られたのです。」（1ペテロ3:9b）

流れのほとり

No.33

関 昌宏
女性委員会担当理事
チャーチ・オブ・ゴッド春日井栄光キリスト教会



「週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た。」(ルカ 24:1) とルカは伝えています。愛する主の葬られた墓をいち早く訪れたのは女性たちでした。

そんな彼女たちに使徒よりも先に復活の事実が伝えられたのです。その後も教会の歴史の中で女性が用いられてきました。そしてそれは今日でも変わることがありません。教会の様々な働きは女性なくしては成り立たないのです。しかし日本の教会において女性の立場はどのようなものなのでしょうか。教会の役員、

教団の理事といった役職に女性はどの程度加えられているのでしょうか。また牧師の妻が教会で果たしている役割は教派を問わず、大変大きなものがあると思いますが、その地位は明確なものでしょうか。決して世の流れに迎合するものではありませんが、教会における女性の立場について、しっかりと吟味していくことが必要と感じます。その意味において JEA 女性委員会の果たす役割の大きさを思うことです。「かたりば」や「リトリート」等を通して率直に語り合う。それが男性たちにもフィードバックされてより良い次代の教会へと成熟していけたらと願っています。

女性委員会の恵み

ユリ・ナカノ 女性委員
JEMA 宣教師

JEMA(宣教師のコミュニテイ)の代表として JEA 女性委員会の委員を延べ7年間させていただき、大変光栄に思っております。私はカナダ生まれの2世なので日本語力に自信がなく、委員として相応しくないと思いましたが、貴重な機会が与えられ多くのことを学べたことを感謝しています。日本のさまざまな教派で指導的役割を担っている教会の女性リーダーである他の委員会メンバーと知り合うことができたことを一番感謝しています。毎回の委員会では稲垣緋紗子著『神のかたちとして一聖書は女性をどう見るか』を読んで、意見を分かち合う時があります。各々の経験からの分かち合いから多くを学び、励まされました。会議の時間の多くは「かたりば」の準備についての話し合いです。「かたりば」はオンラインで開催され、「宣教に生きる女性」をテーマにさまざまな分野で活用されているゲストをお迎えしてお話を伺っていました。今まで15人のゲストがお証を發表されました。私はこの「かたりば」を通して日本で宣教に生きる女性たちにたくさん出会い、多くの日本にあるミニストリーやニーズを知ることができ、私の視野が広がられました。日本で宣教することは難しいと言われていますが、

「かたりば」で出会う全国のクリスチャンに会う度に励まされ、希望が湧きました。女性委員会により多くのメンバーが加わってくださること、このミニストリーの働きがますます祝福されますようにと願っております。

第14回 JEA 女性委員会主催

心のオアシス リトリート

2024年6月10日(月)~12日(水)
会場：マホロバ・マインズ三浦
神奈川県三浦市南下浦町上宮田3-2-3-1
046-889-8911

参加費 **29,000円**
(登録費3,000円・宿泊費24,000円)
部分参加は費用多額
とさせていただきます

リトリートテーマ
**静まりへの招き
~思い巡らすということ~**
詩篇62:1 私のためしは黙って ただ神を待ちのぞむ

ようこそ!
5年ぶりの開催となりました。お国でのお空けを差しあつ
つ一人ひとりの祈りとお話のつながりができるため、あこ
ぼの憩いの時をゆっくりと持ちます。海を背ながら、ひととき
静けさを味わい、心と一緒にリフレッシュしましょう。

講師
片岡栄子さん
著書
『小さなお家からの贈り物』
『静かな風』
(いのちのことは評判)

交通案内
マホロバ・マインズ三浦
神奈川県三浦市南下浦町上宮田3-2-3-1

2024年6月に開催される第14回心のオアシス
リトリートの案内。ぜひご参加ください。

JEA 宣教委員会

宣教フォーラム2024は三重県で開催

中西雅裕 宣教委員長
宣教フォーラム部門

岐阜で開催されたJCE7でしたが、三重県においてもJCE7の実が結ばれつつあります。三重県には、北勢・中勢・南勢地区に牧師会があり、伊勢地区にも合同祈禱会がありますが、これらのネットワークがつながり、JEA 宣教フォーラムの準備が始められました。2024年度の宣教フォーラムの日程は10月14日(月・祝)と15日(火)を予定しています。会場は日本長老教会四日市キリスト教会です。目玉は、JCE7 プロジェ

クトの一つでもあるS&L(Salt and Lightの略)ネットワークです。このプロジェクトが三重県においても広がっていくように願っています。三重県の教会は、日本各地の教会と同じように教会員数の右肩下がり、牧師の高齢化、若者離れが続いていますが、JCE7から続くこの宣教フォーラムを起爆剤として、元気になることを願っています。ご注目下さい。どうぞ参加下さい。お祈りください。

アジア福音同盟40周年記念大会に参加して

田辺寿雄 国際渉外室長
イムヌエル聖宣神学院教会



ACML'40 の参加者

2023年10月23日(月)から26日(木)まで、アジア福音同盟(Asia Evangelical Alliance)の創立40周年記念大会が、インドネシアのジャカルタ郊外のセントウル市にあるSICCタワーとハリスホテルで開催されました。この集会はAsian Church and Mission in A New Landscape(アジアの教会と宣教の新しい景色)、ACML'40と呼ばれ、アジアをはじめとする世界各国の24か国から、約250名以上の各国福音同盟のリーダー、牧師、宣教師また信徒が参加しました。JEAからは、岩上敬人総主事、神戸博央理事、AEA女性委員・子ども委員の岩上真歩子師、AEA理事の田辺の4名が出席しました。

開会礼拝ではAEA総主事のバンバン・ブジジャント師が「あなたがたは今まで、この道を通ったことがない」(ヨシュア記3章4節)からメッセージを取り次ぎました。これを中心聖句として、アジアがこれまで見たことのない新しい世界に入ろうとしている



メインセッションで発表する田辺師

こと、これからの教会リーダーと宣教のあり方や働きについて、AEAとして考えなければならないことが語られました。全体として「これからのリーダーと宣教」を強く意識した会議でした。プログラムは7つの全体集会和、6つのタスクフォース(下記参照)による4回のセッション、そしてテーマ別のワークショップなど盛りだくさんでした。私は2日目のメインセッション「アジアの新たな景色でリーダーを育てる」を担当しました。各セッションではさまざまな世代のリーダーが対話をして、次世代ではなく、全世代で宣教に取り組む姿勢が示されていました。

毎朝の礼拝などの賛美と祈りも熱気に満ち溢れていまし

た。インドのC. B. サムエル師がシンプルかつ、深い霊的洞察から聖書のメッセージを取り次いでくださり、多くの恵みを受けました。多国籍から成るワーシップチームによる讃美のリードも、神の国における礼拝の完成を想起する機会となりました。

今回、6つのタスクフォースがそれぞれ4回のセッションを持ち、各テーマのもとに現状やリサーチの報告と今後のビジョンなどが議論されました。タスクフォースは以下の通りです。①新しい景色の中での教会、②デジタル分野とテクノロジー、③新しい景色の中での宣教、④リーダーの育成と神学教育、⑤青年の信仰表現、⑥家庭での弟子育成。

参加者は事前にどのタスクフォースに参加するかを選択しており、毎回、同じメンバーが集まり、ディスカッションをすることによって議論が深めることができました。同じ分野の関心を共有する者同士で、互いをよく知り合うこともできました。私が参加した「新しい景色の中での宣教」の分科会では、アジアの国々で現在起こっている迫害について、また教会を脅かしている異端カルトについての情報が分ち合われていました。

24日夜には、40周年を記念するお祝いが盛大に行われ、これまでの功労者や各国福音同盟の代表者へ記念品が贈呈されました。またお米でできたインドネシアの特別なケーキも登場し、賑やかにケーキカットのセレモニーが行われました。26日夜の最後の集会では、私たちの献身を表明した宣言文が大きなパネルで登場し、そこに参加者全員で署名をしました。それは、主の大宣教命令の実現のために、(1)これからのリーダー育成に取り組むこと、(2)若い世代が活躍できる場を提供していくこと、(3)世代と文化を越えた教会を目指すべく、新しいテクノロジーを駆使していくことを誓うものでした。大きな成長を遂げてきたアジアの諸教会から私たちは学ぶべきことが多くあります。JEAがAEAとの宣教協力を深めることの大切さを感じました。チャレンジに満ちた4日間でした。



ケーキが取り分けられ、3世代の代表者に分ち合われた。

岩上真歩子 国際渉外室員
AEA 女性委員・子ども委員

アジア福音同盟と D6 の働き

D6 とは、申命記 6 章 (Deuteronomy 6) に基づいて教会と家庭をつなぐ「全世代の弟子育成・ファミリーミニストリー」です。2022 年 6 月にアジア福音同盟 (AEA) 女性委員会と子ども委員会の共催で、オンラインによる第 1 回目の D6 ファミリーカンファレンスを開催しました。アジア各国から 700 名ほどが参加する大規模なオンラインカンファレンスとなりました。その後、AEA は「家庭における弟子育成」を宣教ビジョンの一つの柱に組みこみました。そのために D6 の働きを進めることを各国に推奨し、毎年 D6 ファミリー・カンファレンスをオンラインで開催しています。



AEA の D6 チームメンバー (ACML'40 にて)

第 1 回 D6 ファミリーカンファレンスが開催されるにあたり、AEA 女性委員長から各国の女性委員に対して、通訳や翻訳を入れるかどうか打診を受けました。JEA 女性委員として AEA 女性委員会に派遣されていたので、JEA 女性委員会に相談をし、日本からも参加を呼びかけることに決まりました。そこで、日本語通訳、動画の日本語字幕翻訳を入れ、日本語でも参加できるようにしたところ、日本から 300 名以上のオンライン参加がありました。

2023 年からは専門委員会 (AEA 女性委員会・子ども委員会)、だけでなく、AEA 全体として、家庭における全世代の弟子育成の働きを進めるというビジョンへと広がりました。AEA 全体の取り組みとなったため、JEA 国際渉外室に今後日本で D6 の働きを進めることについて打診をしたところ、日本でも家庭における弟子育成は大切な働きであるから、取り入れることが決まりました。また日本の文脈の中で、日本の教会と家庭に役立つ形に落とし込むことを目指していく方向となりました。このようにして、アジア福音同盟と協力しながら、日本でも D6 の働きが展開しています。現在は D6 の働きの直接の受け皿となる D6 ジャパンが立てられ、AEA と協力しながら働きを進めています。

2024 年 1 月 20 日 (土) には、AEA 子ども委員長グウェン・ロザリオ師をお迎えし、AEA と JEA との共催で D6 ジャパン講

演会を開催しました。午前には JEA 理事長の水口功師の開会礼拝に始まり、第一テモテ 4 章 13～16 節のみことばから、どのような世代であっても気をつけ、学び、聞く姿勢が大切であることが語られました。続いて主講師のグウェン・ロザリオ師が「アジアのファミリーミニストリー」というテーマで講演してくださいました (通訳は高見澤栄子師)。聖書的家族の定義に始まり、AEA による各国の家庭の現状調査のデータを基にして、現在、家庭が直面している課題を挙げました。調査結果として、アジアの家庭が痛んでいる現状 (離婚、DV など) が示されました。第二に外からの課題 (スマホ、タブレットを通しての SNS の情報の影響) などが示され、教会と家庭が連携して、特に教会が家庭を支援することの大切さが語られました。レスポンスとして、日本同盟基督教団の丸山園子師が「日本のファミリーミニストリーの現状」を報告しました。これにより、アジアと共通する課題、日本独自の家族の課題が明らかになり、教会と家庭の連携、教会が全世代で取り組むことの必要性が浮き彫りとなりました。

午後の部は、安藤理恵子師が申命記 6 章の「私たちが幸せになり」をキーワードに、聖書的な原則を語ってくださいました。(1) 神によって生かされるとは、①自分の罪という病に向き合われ、②いやされる希望を知り、③いやし主である神さまに会うこと、(2) 世代をつなげるために必要なことは、①よいものを与え、与えられること、②よいことを言葉にして伝え、共に喜ぶこと、③家族 (教会) になっていくことが語られました。最後に (3) 幸せになっていく日常とは①みことばに教えられ応答していくこと、②自分の正しさや虚栄から離れて正直に祈ること、③他の人と祈りのプロセスを共有すること、特に夫婦、家族、教会で神の御業を一緒に体験することの大切が語られました。レスポンスとして、COG 大江町キリスト教会の高橋香世師が山形県の一地方教会で取り組んでいる、弟子づくりの実例を紹介してくださいました。

今後も AEA と協力しつつ、日本での D6 の働きを継続していきます。



D6 講演会の奉仕者

牧師の本棚

『宣教ガイド2023
「おわり」から「はじめる」宣教協力』

(JEA 宣教委員会宣教研究部門編、いのちのことば社、2023年)

赤坂泉 神学委員長
聖書神学舎校長

本書には、第七回日本伝道会議に備えて収集されたデータと研究の成果が満載です。伝道会議に参加しなかった皆様には是非入手していただきたいし、参加した皆様にも再度の精読に値する、貴重な一冊です。日本の諸教会が直面している「おわり」をどう捉え、何を、いかに「はじめる」ことができるのか、データに基づく観察と考察、問題提起や提言が本書各章に展開しています。

例えば、2章「増える在留外国人と在日外国語教会との宣教協力」は、在留外国人数の急増の事実と予測とを示した上で、外国語教会の概況や宣教協力の具体例を示し、取り組みの課題を挙げ、結びの「期待」の中では6項目の極めて実践的な提案をしています。変化の速い時代です。情報の鮮度が高いうちに教会で読み合わせ、学び直し、祈りと行動へとつなげていけると良いのではないのでしょうか。

4章「地方宣教の課題と解決に向けた模索」も切迫している課題を直視します。教会の人口減少による経済的不足、牧師の疲弊、無牧教会の増加および教会閉鎖の状況等と並ぶ小見出しを知るだけでも、なるほど喫緊の現実を取り扱っていることが分かるでしょう。教会のみならず教団等のレベルでの取り組みがさらに加速することが大切です。先延ばしにできない課題に

向き合う助けとなるでしょう。

希望もあります。次世代育成・全世代宣教に諸教会の注目が改めて集まっている様子や、教会間、教団間の交流が加速している面もあります。そのような情報も紹介されています。IT・生成AIの活用や人的資源のネットワーク形成など、宣教協力の推進のための具体的なアイデアやヒントがあります。希望を持って「はじめる」私たちのために。

これは伝道会議そのものについての感想になりますが、40歳代以下の大勢の奉仕者が、生き生きと主に仕える様子が頼もしく、嬉しい4日間でした。課題は尽きませんが、大きな希望もあります。

本書が、諸教会の視野を拡げ、視線を引き上げ、主に期待する視座を励まして、宣教協力を推進する力の一つとして用いられますように。



信教の自由セミナーと委員会声明

児玉智嗣 社会委員長
JECA 布佐キリスト教会

ロシア・ウクライナ戦争は泥沼化し、戦死者は増え続けています。また、中東ではイスラエルとイスラム組織ハマスとの間で新たな紛争が起きてしまいました。いずれも歴史的な経緯と国民感情もあり停戦は困難、かつ終戦は終わりが見えない状況です。いま世界は新しい冷戦の時代に入ったと言われています。

昨年12月1日(金)にZoomミーティング(オンライン)で、第35回信教の自由セミナーを開催しました。講師は岡山英雄師(JECA 東松山福音教会)で、テーマは「終末の時代に平和を考える」です。岡山師は、終末論的な視点から、現在の状況についても言及されました。「イスラエルは神のご計画の中で建てられた国であり、その民には特別な役割がある。しかし、現在のイスラエル共和国は、近代国家としての矛盾を抱えている。建国以来、イスラエルがパレスチナ人にしてきた非人道的な弾

圧や、空爆によるガザ市民の犠牲は問題である。停戦と平和のために祈る。」

社会委員会では、「イスラエル・ハマスの紛争に対する JEA 社会委員会声明」(2023年12月7日付)を発表しました。「私たちは、イスラエルとハマスの双方に対して、すべての人々の命を守るため、すべての人質を解放し、すべての戦闘行為を即時停止することを強く望みます。また私たちは、『平和の君』である主イエス・キリストの『剣をさやに収めなさい』(ヨハネ 18:1)、『やめなさい。そこまでにしなさい』(ルカ 22:51)の教えに従い、イスラエル・パレスチナの平和のために祈り続けていきます。」この委員会声明については、発表した後でさまざまな応答をいただきました。私たちは、イスラム教徒もユダヤ教徒もキリスト教徒も含めて神のかたちとして作られたす

(Page 7に続く)

青年宣教ネットワーク が始まります！

吉村和記 青年委員
イムマヌエル久留米キリスト教会

これまで青年委員会では、毎年「青年宣教サミット」を行い、JEA に加盟している教会・教団・宣教団体の青年担当者の皆さまとともに「青年宣教」について良き研鑽、分かち合い、情報交換の時をもってきました。

このたび、「青年宣教ネットワーク」と名称を改め、下記のような大会を開催することになりました。

▽日程： 2024年10月29日(火)～31日(木)

▽会場： つま恋リゾート彩の郷(静岡県掛川市)

▽参加人数：先着70名

▽参加費用：32,000円 *早割制度あり。

▽テーマ：「友でととのう～How to よりも仲間との出会いを」

■大会コンセプト—「友でととのう～How to よりも仲間との出会いを」

今回、大会で目指しているのは、「青年宣教を担う仲間の先生方とのネットワークづくり」です。JCE7の分科会でも共有しました「2030年問題」、その年に限らず、すでにずっと続いている青年宣教を担う器たちの人手不足の問題意識が念頭にあります。それを考えますと、これまでのように講師から取り組みを紹介して頂いて、そのhow toを聴いて刺激を受けるという集いにするよりは、同じ課題に取り組むひとり一人がこの大会で出会い、問題と夢を共有し、自分たちの現実を正直に祈り合う、そのようなネットワークづくりを目指すのが今大会のコンセプトです。

■大会の目標—大会後に、アンケートに書ける「言葉」よりもそれ以降も続く「関係」が残ること。

たくさん教えられたことをアンケートに書けることも幸いです。でもその時限りの記憶で終わるのではなく今回の大会をきっかけに、すぐに連絡を交わし、協力をし合える仲間との「関係」が築かれていくことを祈り願っています。

■大会プログラム—神を知り、他者を知り、自分を知る時間が盛り込まれています。

三日間のプログラムは、あつという間です。だからこそ、参加される皆さまには受身ではなく、神さまと他者と自分を知ろうとして積極的に心を開いていただきたいと願っています。

■大会参加人数は先着70名—各教会・教団・諸団体から1～2名を推薦し、送り出していただけませんか。

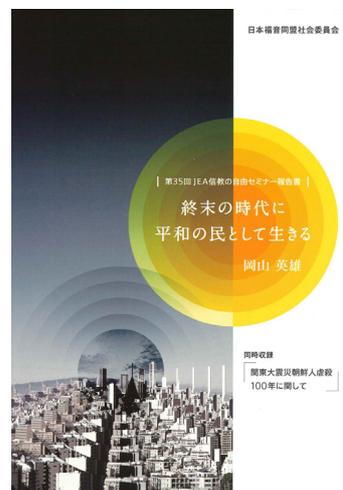
現在青年宣教を担当しておられる方、また明日の青年宣教を担うことを期待されている方など1～2名を推薦して頂いて、その方々の参加をまずは優先させて頂きたいと思います。その後の申し込み状況で、さらに人数の枠を広げてご案内させていただきますことがあります。

10月末に皆さまと出会えることを楽しみにしています！

(Page 6 から続く)

すべての人々の命が大切にされ、虐げられている人々の人権が擁護されていくために、祈りを共にしていきたいと考えています。今後、理解や対話が進むことを期待しています。

先の信教の自由セミナーの「報告書」を発行しました。『終末の時代に平和の民として生きる』(定価300円)。この「報告書」には、社会委員会メンバーによる、「関東大震災朝鮮人虐殺100年に関して」も収録されています。この報告書が、「平和の民」として、「将来に向かって状況を新しく切り開くために必要とあれば、いつでも抵抗しうる力」を蓄えるための一助になることを願っています。



問い合わせと注文は
JEA 事務所まで。
(03) 3295-1765
FAX(03)3295-1933
admin@jeanet.org

定価 300円

JCE7 大会期間中に JEA 懇親会を開催

2023年9月20日(水)、JCE7大会二日目の午後に JEA 懇親会を開催しました。これは JCE を機に、JEA 理事会が日本と世界の諸教会の代表者の皆さまを招待して、互いに知り合い、交わりを深める目的で行いました。日本また海外に招待状をお送りしたところ、多くの方々にご参加くださいました。海外からは世界福音同盟 (WEA) 総主事のトーマス・シルマッハー師、韓国福音主義協議会 (KEF) からイム・ソクソン会長をはじめ4名の先生方、日本からは、日本キリスト教協議会、日本基督教団、日本ナザレン教団、日本ペンテコステネットワーク、日本聖書協会から代表者の皆さまをお迎えしました。岐阜市長の柴橋正直氏、参議院議員の金子道仁氏も参加されました。出席は許されませんでした。アジア福音同盟議長 (AEA) のゴッドフリー・ヨガラジャ師も JEA と JCE7 に動画メッセージを送っていただきました。

JEA 理事長の水口功師による挨拶と開会祈祷に始まり、食事をともにしながら各テーブルで自己紹介と交わりの時をもちました。また、招待者の皆さまからご挨拶をいただきました。

JCE7 での韓国福音派との交流



JEA 懇親会の後に、韓国福音主義協議会 (KEF) の先生方との交流会をもちました。韓国福音派は長い間、異端カルト問題で分裂状態にあり、公式の交わりが途絶えていました (もちろん様々な教団、教会レベルで活発な宣教協力は続いていましたが)。JCE 7 をきっかけとして、これまで AEA を通じて交わりがあった KEF の先生方をお迎えすることが許され、交わりをもつことができたことは本当に感謝でした。その場に WEA 総主事が

WEA 総主事と副総主事の来日

2023年度は WEA 総主事のトーマス・シルマッハー師がアジア歴訪の途上で日本を二度、訪問してくださいました。一度目の来日の時には、JEA 理事有志と懇談会をもち、JEA から WEA に対して、さまざまな疑問や意見をお伝えすることができました。



た。日本と世界を代表する方々から、それぞれの立場から教会と宣教の課題が分かち合われ、大変、濃密で意義深い懇談の時となりました。

メインスピーチは、WEA 総主事のシルマッハー師が世界と日本のつながりについて、WEA の現在の働きの内容について、WEA が日本の教会を覚えて祈っていると励ましてくださいました。

伝道会議を機に、日本の主流派教会の代表者、世界福音同盟、アジア福音同盟、韓国福音派の先生方とのグローバルなネットワークを構築できたことは大きな恵みでした。

同席してくださったことも大きな意義がありました。

韓国の教会で大きな祈りの課題となっている南北統一問題について、特に北朝鮮に拘留されている韓国の牧師の解放のために働きかけ、祈っていることが報告されました。そして一同で北朝鮮に拘留されている先生方の解放のために祈りました。JEA からは韓国福音派が再統合され、もう一度、アジアと世界に対して公式の窓口をもってくださるよう、要請しました。KEF からは、韓国では現在、福音派を統合する UCCK という団体が設立され、福音派主要教団が加盟しつつあることが報告されました。UCCK が韓国を代表する団体となるまでもう少し時間がかかるそうです。韓国福音派諸教会の一致のためにお祈りください。

シルマッハー先生も誠意をもって、JEA からの疑問に答えてくださいました。詳しい内容は JEA 総会で報告するさせていただきます。また WEA 副総主事であるペイロン・リン氏も3月に来日され、JEA 総主事と会談しました。WEA と直接、対話できたことは大きな恵みでした。

JEA 総務局から

- ◆ 2023年度は JCE7 や ACML40 などの大きな大会が連続し、JEA ニュースの発行が1回となりました。
- ◆ JCE7 を機に、JEA は世界福音同盟や韓国福音派との対面での対話することが許されました。AEA や WEA 関連の報告は歴史的意義の深いものと思います。
- ◆ JCE7 の報告は、JCE から詳細な報告書が発行されますので、ぜひそちらをお読みいただけたら幸いです。今回の JEA ニュースでは国際関係に焦点を当てて、編集しました。
- ◆ JEA では次の第8回伝道会議に向けて、すでに準備が始まっています。どうぞお祈りください。



日本福音同盟

心一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い (ピリピ 1:27)

JEA ニュース62号 発行・日本福音同盟 (JEA)
発行者: 水口功 編集者: 岩上敬人
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 501 号
TEL: 03-3295-1765 FAX: 03-3295-1933
email: admin@jeanet.org
郵便振替: 00150-8-68442 (口座名義: JEA)